

第【 1 】学年 【 技術 】科学習指導計画

月	単元名	小単元・目標	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 規 準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	ガイダンス					
5	材料と加工	□材料の基本的な性質が分かる。	木材、金属、プラスチックの特徴を知る。	主要な材料や加工の特性等の原理・法則を理解している。	技術に込められた問題解決の工夫について考えている。	進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。
6	木材の特徴	□木材の基本的な性質が分かる。	木材の性質を知る。	木材の特徴と性質についての知識を身に付けている。		
6・7	製図	□製作に必要な図を等角図で書き表すことができる。	製図記号について知る。 等角図での設計図の書き方を知る。	製作に必要な図を等角図及び第三角法でかき表すことができる。		
9	作業の安全	□製作時の心掛けや作業の安全について調べる。	製作時の心掛けや作業の安全を知る	練習作品の製作を通して、実習の安全な作業の進め方を身に付けている。	作業台の上を整理整頓し、安全な環境を作ることができる。	
9	木材のけがき	□木材のけがきができる。	木材へのけがきの方法を知り、けがきをする。	材料に適したけがきの方法についての知識を身に付けている。 けがきに必要な工具を、正しい方法に基づいて適切に使用することができる。	工具の仕組みを生かした使い方を工夫している。	
10	木材の切断、	□適切で安全な木材の切断ができる	木材の切断方法を知り、安全に木材を切断する。 材料に適した工具を選択し、安全な作業を行う。	木材の適切な切断方法についての知識を身に付けている。 材料や加工の形状によって、工具を正しく選択し、安全に配慮しながら正確に切断する方法を身に付けている。	工具の仕組みを生かした使い方を工夫している。	
11	木材の切削	□適切で安全な木材の切削ができる。	やすりがけにより部品を寸法通りに仕上げ、表面や切断面を滑らかにする。	やすりがけの方法についての知識を身に付けている。 やすりがけを、正しい方法に基づいて適切に行うことができる。	工具のしくみを生かした使い方を工夫できる。	
12	下穴あけ・接合	□適切で安全な下穴あけ、くぎ接合ができる。	くぎ接合の手順を理解し、四つ目ぎりや接着剤、げんのうを使用し接合する。	くぎ接合の方法についての知識を身に付けている。 くぎ接合を正しい方法に基づいて適切に行うことができる。	工具のしくみをいかした使い方を工夫している。	
1	仕上げ	□適切で安全な仕上げ加工ができる。	塗装や表面処理を行う。	塗装や表面処理の方法についての知識を身に付けている。 塗装や表面処理を正しい方法に基づいて適切に行うことができる。		

2	製 作 品 の 評 価	□完成した製作品を評価し、次のものづくりへの課題を考えることができる。	評価の観点に基づき製作品の評価を行い、発表を通して他者の意見や考えを参考に次回へのまとめを行う。	作品を自己評価できる。	製作品を評価する観点に基づいて評価することができ、次回への参考にしている。	自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正しようとしている。
3	製 作 品 の 紹 介	完成した製作品の紹介ポスターを作ることができる	プレゼン資料作成の技能を身に着ける。 ロイロノートで製作品紹介ポスターを作成する。	設計の考え方や手順を理解している	課題を解決するために、条件を踏まえて適切なメディアを選択し、構想を具体化して設計や計画をまとめている。	自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正しようとしている

第【 2 】学年 【 技術 】科学習指導計画

月	単元名	小単元・目標	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 規 準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	製作(材料加工)	□作品を組み立て、仕上げることができる。	まっすぐぎぎを打つ。 手順通りにやすりがけを行う。	げんのうの使い方が分かる。 やすりがけの手順が分かる。		
6	電気エネルギーを利用する仕組み	□電気エネルギーを利用する仕組みを知る。 □電気エネルギーを熱、光、運動などのエネルギーに変換する仕組みを知る。	エネルギー変換の技術を見つける。 電気を作る仕組みを知る。 電気を供給する仕組みを知る。	エネルギー変換の科学的な原理・法則を理解している。		自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとしている
7	電気部品 定格表示	□定格表示を読み取る。	定格表示について知る。 たこ足配線の危険性について調べる。	定格表示の意味やたこ足配線の仕組みと危険性についての知識を身に付けている。 機器の点検すべき箇所を見つけ、保守点検と事故防止ができる。	機器の安全な使用について、自分の生活と関連付けて考えようとしている。	
7	機器を安全に使用しよう 電気による事故	□電気による事故の原因を知り、防止する方法を考えられる。 □機器の異常や不具合の状況を、ほかの人に説明できる。	感電やショートなどの経験について話し合い、電気による事故についてまとめる。 屋内配線とブレーカの仕組みと操作手順を知る。 漏電遮断機とアース線の働きを知る。	電気による事故の原因を知り、点検の重要性についての知識を身に付けている。 屋内配線とブレーカの仕組みを理解し、漏電、感電などの電気の事故防止ができる。	機器の安全な使用について、自分の生活と関連付けて考えようとしている。	
9	電気回路	□電気回路の基本的な仕組みを知る。	電気機器には、電源、導線、負荷で構成される電気回路が組み込まれていることを知る。	電気機器の電源、導線、負荷のそれぞれの役割についての知識を身に付けている。 電気用図記号の意味を理解し、簡単な電気回路を回路図に表すことができる。	身の回りの製品の電気回路を考えることができる。	電気回路の工夫を考え、示すことができる。
9	育成計画	生物育成の計画を立てる。	育成計画作成	育成計画を立てる必要性を知る。	育成計画を立てる必要性を考えることができる。	生物の特性に合った育成計画を立てることができる。
9	栽培	計画に沿って作物を栽培することができる。	栽培	栽培に関する知識と技能が身に付いている。		適切に管理することができる。
10	生活や社会を支える技術	生物を育てる技術を見つけることができる。	生活や社会を支える生物育成の技術の例や、問題解決の工夫について調べる。			自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとしている

10	家畜や水産生物を育てる技術	家畜や水産生物を育成する技術の例や、問題解決の工夫の例を見つけることができる。	家畜や水産生物を育成する技術の例や、問題解決の工夫の例について調べる。	安全・適切に育成環境の調整や家畜・水産生物の管理・収穫について理解している。	生物育成の技術の見方・考え方を働かせて、地域社会の中から問題を見いだして課題を考えている。	進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。
10 11 12	基礎技能 工具の使い方	□安全・適切に工具を使用する。	エネルギー変換を利用した製作品の製作や保守点検に使用する工具を正しく使用する。	組み立てや調整に必要な工具の適切な使用方法についての知識を身に付けている。	工具の工夫を考えることができる。	進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。
1 2 3	パソコンの基礎技能	□コンピュータの使い方を身に着ける。 □PowerPoint、Excelの基礎を身に着ける。	PowerPointで図形を組み合わせでイラストを作成する。 Excelでカレンダーを作成する。	パソコンの基本的な操作方法が分かる。	得た知識を使って考えていることをコンピュータ上で表現できる。	進んで作業に取り組むことができる。

第【 3 】学年 【 技術 】科学習指導計画

月	単元名	小単元・目標	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 規 準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	計測・制御	□計測・制御の仕組みを知る。	計測・制御システムの基本的な構成と情報の流れを知る。 計測制御システムにおけるコンピュータの役割を知る。	計測・制御の仕組み等の原理・法則を理解している。	身の回りの機器の計測制御の仕組みを考えることができる。	進んで情報の技術に関わり、主体的に理解し、技能を身につけようとしている。
5	計測・制御プログラム	□身の回りの計測・制御システムについて知る。	身の回りの機械が動く仕組みを考え、プログラムを作成する。	身の回りの機会のプログラムを 考えることができる。	身の回りの機器の計測制御の仕組みを 考えることができる。	身の回りの機器の計測制御の仕組みを 考えることができる。
5	コンピュータの仕組み	□コンピュータが情報を処理するしくみを知る。	コンピュータが情報を処理する仕組みについて知る。	コンピュータの構成と、コンピュータが情報を処理する仕組みについて理解している。	仕組みやその工夫について考えることができる。	問いに対して積極的に考えることができる。
6	情報通信ネットワークの仕組み	□情報通信ネットワークのしくみを知る。	情報通信ネットワークの仕組みについて知る。	情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みについて理解している。	仕組みやその工夫について考えることができる。	身の回りの機器の計測制御の仕組みを 考えることができる。
6	情報モラル	□情報伝達の安全性とマナーを考えて、日常生活に生かす。	事例を基にして、情報技術を利用するにはどんなことを心がければよいかを考える。	情報を利用する際に心がけるべきことを知る。	モラルを守る必要性を考えることができる。	学んだことを生活に生かすことができる。
7	知的財産権	□知的財産権の種類と内容を知る。	知的財産権の種類と内容を知る。 なぜ知的財産権を守る必要があるかを考える。	知的財産の種類を知る。	知的財産の必要性を考えることができる。	自分なりの新しい考え方や捉え方によって知的財産を創造し、他者の考え方や捉え方も知的財産として尊重し、またそれらを保護・活用しようとしている
7	情報セキュリティ	□情報を安全に利用するための考え方を身に付ける。	情報技術の特性を理解し、情報が社会に与える影響を知る。	情報を安全に利用する方法がわかる。	身近な事例をもとに情報が与える影響を 考えることができる。	学んだことを生活に生かすことができる。
9 ～ 11	制作	□プログラムを作る。	プログラミングソフトを使って制作を行う。	プログラミングソフトの基本的な操作方法がわかる。	設計・計画に照らして、制作の過程を評価、改善及び修正している。	自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正しようとしている
12 ～2	デジタル作品	□内容をわかりやすく伝える作品を作る。	powerpointとexcelの活用方法を知る。 表現方法を工夫してスライドを作成する。 工夫した点を説明する。	設計の考え方や手順を理解している	課題を解決するために、条件を踏まえて適切なメディアを選択し、構想を具体化して設計や計画をまとめている。	自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう粘り強く改善・修正しようとしている

